学校と博物館をつなぐ情報誌　No.１８５（平成２９年１２月号）

いのちのたび

〒805-0071　北九州市八幡東区東田二丁目４番１号
Tel 681-1011　Fax 661-7503
http://www.kmnh.jp/
発行　北九州市立いのちのたび博物館　ミュージアムティーチャー

秋の特別展では、多くの方にご来館いただきありがとうございました。さて、２０１７年も残すところあとわずか。博物館では今月２３日（土）から冬の特別展「アクア・キングダム―スピノサウルスと水に還ったどうぶつたち―」を開催いたします。今年最後のお出かけに、いのちのたび博物館はいかがでしょうか。皆様のご来館をお待ちしています。

ぽけっとミュージアムって、どんなところ？

昔のくらし

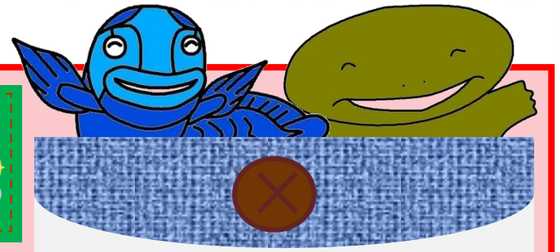
福笑いやお手玉など、昔の遊びを体験できます！

道具のうつりかわり

昔の遊び（ハンズオン）

歴史系ぽけっとミュージアム

北九州の文化や歴史に関する資料を紹介、展示替えも行っています。現在、企画展「変わるわたしたちのくらし」が開催中です（ぽけっとミュージアム 11）。昔のくらしや道具のうつりかわりについて展示しています。



自然史系ぽけっとミュージアム

自然史分野の専門的な内容にふみこんだミニ企画展を行うコーナーです。現在は、ディプロミスタス（博物館建設の元になった化石）をはじめとして全部で９つあります。見れば見るほど自然界の面白さ奥深さを実感できる、小さな小さなミュージアムです。

シーラカンスと海のおいたち

アンモナイト

世界の海の貝

ディプロミスタス

大きなアンモナイト！

さわってみよう！

カエルとサンショウウオ

他にも、
地球と生命　地震の仕組み
甲虫の世界　大連市との交流
にスポットをあてた展示があります。

冬の特別展　2017 年 12 月 23 日～ 2018 年 2 月 25 日

いのちのたび博物館は、今月２８日（木）まで開館しております。
（２９日（金）～１月１日（祝・月）は年末年始のため休館。）
今年も大変お世話になりました。
皆様、よいお年をお迎えください。
来年もいのちのたび博物館をどうぞよろしくお願いいたします！

【学芸員のよもやまばなし】

小倉藩主小笠原忠真の家族と親戚

現在、当館では１０月７日（土）から特別展「最後の戦国武将　小倉藩主　小笠原忠真展」を開催しております。この展覧会では、主人公の忠真だけでなく、彼の親族の史料を数多く展示しています。そこで、彼の家族と親族について紹介したいと思います。

まず、忠真の親族のなかでも皆様がよく知っておられるのが、徳川家康と織田信長だと思われます。家康の跡を継いだのは三男の徳川秀忠ですが、家康の長男は徳川信康（岡崎三郎）です。その信康は、織田信長の長女・徳姫（見星院）を正室に迎え、２人の間には福姫（峯高院）と国姫（妙光院）が生まれました。つまり、２人の姫は家康と信長の孫娘にあたります。長女の福姫は、豊臣秀吉の仲介で、小笠原秀政に嫁ぎ、忠真とその兄・小笠原忠脩をはじめ六男二女を生みました。

忠真の姉・万姫（敬台院）は、蜂須賀至鎮に嫁ぎ、徳島藩２代藩主蜂須賀忠英をはじめ一男二女を生みました。蜂須賀家には３代にわたって小笠原家の息女が輿入れしました。

忠真の妹・千代姫（保寿院）は、細川忠興の三男・細川忠利に嫁ぎ、熊本藩２代藩主細川光尚を生みました。光尚の子・六丸（のちの３代藩主細川綱利）が幼くして家督を相続する際には、大伯父の忠真が後見役を務めることで幕府に相続を認められています。

万姫は徳川家康の養女として、千代姫は徳川秀忠の養女として、それぞれ嫁ぎ、小笠原家は、徳川家と有力外様大名の蜂須賀・細川両家をつなぐ役割も果たしたのです。

さて、忠真の正室は本多忠政の次女・五姫（円照院）です。本多忠政の父は、本多忠勝で、忠政の姉には真田信之に嫁いだ稲姫（大倫院）がおり、信之の正室と忠真の正室は伯母と姪の間柄で、小笠原家と真田家は縁続きでした。

また、本多忠政の正室は、徳川信康の次女・国姫でした。つまり、忠真と五姫はいとこ同士でした。さらに実は、五姫は、はじめ忠真の兄・忠脩に嫁ぎ、のちの中津藩主小笠原長次と、徳島藩２代藩主蜂須賀忠英に嫁ぐ繁姫（齢昭院）を生みました。しかし、慶長２０年（１６１５）５月の大坂夏の陣で忠脩が戦死し、未亡人となった五姫は２人の子どもを連れて忠真と再婚しました。これは、大御所家康、あるいは将軍秀忠の意向によるものでした。

忠真と五姫との間には、二男三女がいました。長男・長安、次男・長宣は父の忠真に先立ち亡くなったため、跡を継ぐことが出来ませんでした。長女の市松姫（宝光院）はのちの福岡藩３代藩主黒田光之に嫁ぎ、四男一女を生みました。市松姫の三男の黒田綱政は福岡藩４代藩主に、四男の黒田長清は直方藩主となっています。忠真の次女・兼（嘉禰）姫は、水戸藩２代藩主徳川光圀の弟で、常陸国（茨城県）額田藩主の松平頼元に嫁いでいます。

忠真は、五姫に先立たれ、五姫の侍女だったといわれる那須藤（永貞院）を側室に迎えました。藤との間にのちの小倉藩２代藩主小笠原忠雄、小倉新田藩初代藩主小笠原真方が生まれています。真方は、黒田光之のいとこで、秋月藩初代藩主黒田長興の息女・伝姫を正室に迎えています。ちなみに忠真には、藤の他にもう１、２人の側室がいたようです。

忠真は、九州の外様大名から「九州御目付」・「九州探題」とみなされました。ですが、忠真は単に外様大名の動向を監視するのではなく、婚姻を通じて親戚となり、彼らの家の問題解決に尽力するなど、良好な関係を築くことによって、徳川幕府の九州支配の要となったのでした。

「小笠原忠真展」は１２月３日（日）までの開催です。ご来場を心よりお待ち申し上げております。

小袖裂
（崇福寺蔵・福岡市博物館寄託）

（歴史課学芸員　守友　隆）